

短期予報解説資料 2026年10月3日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 寒冷渦の中心がオホーツク海からカムチャツカ半島に進んでいる。3日朝に500hPa 5580～5640mの寒気を伴うトラフが通過することに留意が必要だが、上層は基本的には暖化傾向。地上低気圧も概ね寒冷渦直下となって遠ざかりつつあり、非常に強い風を観測した強風のピークも過ぎた。北日本では波が高く、北海道地方の海域ではしけている所がある。また、一部の標高の高い山岳では積雪を解析。
- ② 中国東北区に中心をもつ高気圧の南側では北または北東のやや強い風が広い範囲で吹いており、東日本や西日本の太平洋側でも波がやや高くなっている所がある。また、高気圧の張り出しにより南下する下層暖湿気に対応し、沖縄近海で活発な対流雲域がある。非常に激しい雨を解析、発雷を検知。

- ③ 進路を西から北に変えた台風第27号がマリアナ諸島を北上。北側には進路等に影響を及ぼす可能性のある上層寒冷低気圧があるが、当面は発達に適した環境下で亜熱帯高気圧の西側を北上する見込み。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧や1項②の高気圧の張り出しに伴い、引き続き強い風が吹き、波が高く、しける所もある見込み。北～西日本では3日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の活発な対流雲域の影響を引き続き受ける所がある。南西諸島では4日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。
- ③ 東～西日本の太平洋側では4日は引き続き、やや強い風が続くことによる高波に加えて、台風第27号周辺を波源とするうねりが到達し高まり始め、しける範囲が拡大する。東～西日本の太平洋側では4日からはうねりを伴う高波に注意。台風第27号が5日から6日頃にかけて最接近する小笠原諸島では4日から6日頃にかけて、うねりを伴う高波に警戒。5日から6日頃にかけて、強風や土砂災害に注意・警戒。
- ④ 3日から4日にかけては1項②の高気圧に覆われて晴れる所が多くなるが、4日から5日にかけて中国東北区で次の寒冷渦がまとまるのに伴い、500hPa 5820m付近の強風軸の正渦度極大域に対応して東シナ海から九州付近に前線がのびるようになる。4日夜から5日にかけては、日本の東に中心を移す1項②の高気圧の南側からの湿った気流と前線に沿う下層暖湿気が合流し、大気の状態が不安定となる所がある。西日本では4日から5日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。また、激しい雨が降り大雨となる可能性があるが、場所等に不確かさがある。その他の地方では、気圧の谷の接近に伴い曇りの範囲が広がる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ②波浪(明日まで)：小笠原6、北海道・伊豆諸島・近畿・四国4、関東・東海・九州北部・九州南部3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。

